

(国語)

「伝え合う力を育み、『対話的で深い学び』の充実を図る指導の工夫」

大阪市立東桃谷小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「創造性に富み、主体的で思いやりがあり、心身ともにたくましい児童を育成する。」と設定し、日々の教育活動を展開している。

児童の実態を把握するために、「全国学力・学習状況調査」と「大阪市学力経年調査」の分析を行った。その結果から、国語科における「考えをまとめて発表する力」さらには、「意見交流してよりよい方向にまとめていく力」に課題があることがわかった。また、若く経験の浅い教員が多く、指導力の向上に取り組む必要もあった。そこで、3年前より研究教科を国語科に設定し、基礎・基本からの研究を重ねてきた。

1年目「読むこと」、2年目「書くこと」の研究を受けて、本年度から「伝え合うこと」に焦点を当て、本年度は研究主題を「伝え合う力を育み、『対話的で深い学び』の充実を図る指導の工夫」として研究を進めた。主題設定の理由として、「読む」「書く」「話す」「聞く」ことを含めた総合的な言語活動である『伝え合う力』に焦点を当てることが、これまでの研究実践を発展させ、言語活動のさらなる充実が図れると考えたからである。

さらに、指導力向上のための取り組みとして、「学力向上推進モデル校」（平成30、31年度）となり、大阪市教育局の「学力向上推進モデル事業」を活用している。

2. 研究の概要

伝え合う力を共通認識

- 「伝え合う力」の要素についての分析

「伝え合う力」を「ペア交流やグループ交流を通して、自分と相手の意見を比較する活動を行い、全体を通してよりよい方向にまとめる力」として共通認識した。

伝え合う力を高めるために

- 「授業デザイン」について

「授業デザイン」とは、児童の実態から、はじめにつけたい力を明らかにし、単元全体を見通して計画を立て、「なか」の段階で習得した力を「まとめ」の段階で活用・発展させる授業を組み立てることとした。その上で、毎時間の授業計画を立てている。

4つの指導のポイントを共通認識

- ① 課題設定

- 対話的な学びにつながるように、単元の学習計画を立てる際には児童の初発の感想をもとに課題を設定するなど、子どもに適した課題設定を工夫し、常に課題を意識できるようにする。
- 自分の考えや意見をはっきりさせるとともに、毎時間の交流(伝え合う場)を通して多様な考えに触れ、新たな気づきや意見の修正につなげていくことを目指す。

② ペアからグループ、全体へと交流につながる言語活動の場の設定

- ペアやグループでの交流を通して、自分の考えを話し、友だちの考えと比較したりすることで思考力の向上につなげる。
- 全体交流では、自分の考えを話したり、全体で話し合ったりすることを通して、各自の考えを深めていく。

③ 「伝え合う力」を高めるための思考力・判断力・表現力の育成

- 比較、検討するなどが求められるように教材の扱いを工夫したり、交流を通して友だちと似ているところや違うところを比べたり、教材を読み比べたりして、思考力・判断力を高める。
- 自分の考えや意見、感想をいろいろな場や方法で伝えたり交流したりすることを通して豊かな表現力を養う。

④ 評価

- 評価基準を明確にする。
- 指導者が適切に評価することで、子どもが課題解決に向けて学習を進めていくことができるようにする。

＊教室の環境づくりとして

- ・ ハンドサインや基本話型などの言語環境の整備
- ・ 生野図書館等公共図書館、図書館補助員との連携を密にし、図書館の活用を図る

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 学力向上推進モデル事業を活用したことで、教員全体の指導力の向上、特に若手教員の育成につながった。
- 大阪市学力経年調査において、大阪市全体の平均を100点とした国語科の標準化得点が、1.8点、向上した。
- 児童に関する学校生活のアンケート調査では、国語に関する「授業では進んで発表したり、友だちの意見をよく聞いたりしている」や「本を読むことは楽しい」などの項目で、肯定的な回答が増えた。
- 「読む」「書く」「話す・聞く」の関連を学年ごとに考えて研究を進めたことにより、「書く力」や「伝え合う力」が身に付き、国語科での学習を基本にして、他教科への発展につながり、交流活動が活性化した。
- 伝え合う力の育成のために、様々な観点から研究授業に取り組んだことで、特色のある研究となり、研究主題「伝え合う力を育み、『対話的で深い学び』の充実を図る指導の工夫」にせまることができた。

(2) 今後の課題

- 国語科として身に付けた力を他教科・領域や言語活動の場に生かすとともに、さらに言語活動を活性化する。